

広報いずのくにが

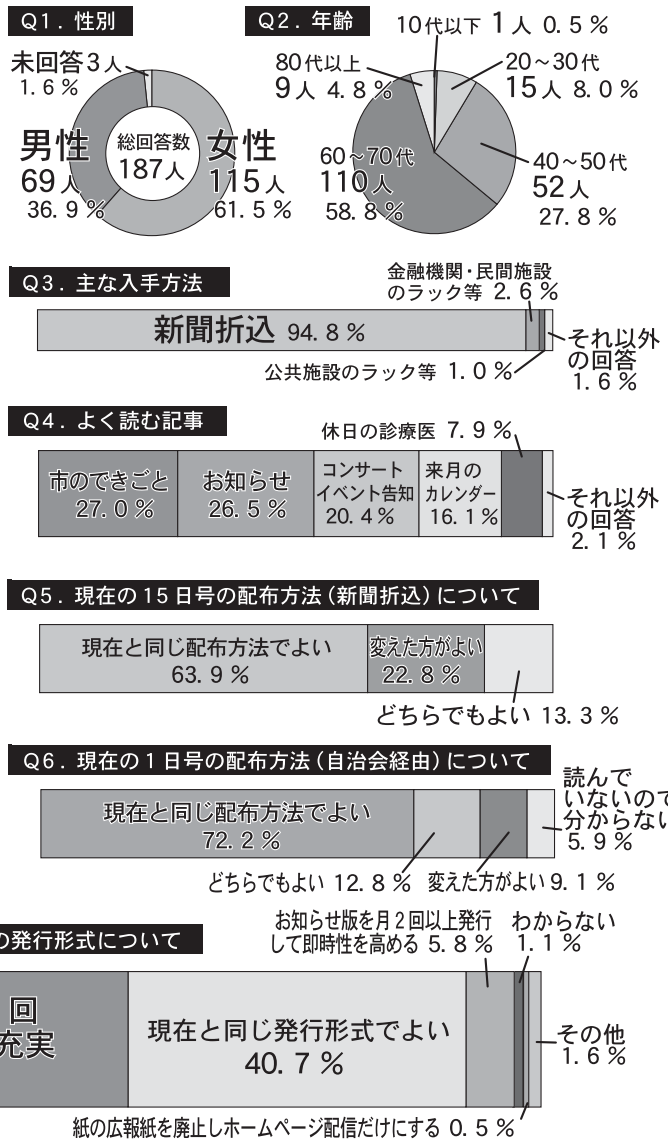
新しくなります！

四月十五日号でお伝えしたとおり、『広報いずのくに』をより充実させるため、**十五日号「お知らせ版」の発行を終了し、「一日号」冊子版**に統一します。

問合せ 秘書広報課
電話 055 948 1431

『広報いずのくに』の現状
現在市では、『広報』一日号(主に自治会を通じて配布)と十五日号(主に新聞折り込みで配布)の月二回広報紙を発行し、皆さんに大事なお知らせをお伝えしています。
しかし以前から、「新聞をとっていないため十五日号が届かない」「新聞折込はチラシと一緒に気がつかない」など、ご意見を頂戴しています。
アンケートの実施と結果
そこで、広報一月十五日号と二月一日号に八ガキを差し込み、全読者対象のアンケートを実施したところ、計二百八十三通の貴重なご意見をいただきました。集計の結果は

方のアンケートのQ7から、過半数の皆さんが、月一回発行して内容を充実した『広報いずのくに』の発行を望んでいることも分かりました。
十五日号の発行を終了
『広報いずのくに』は、より多くの皆さんに市の大事なお知らせを伝えなくてはならない一方、市の財政状況からも無駄のない、最も効果的な配布方法を考えなくてはなりません。新聞を購読する世帯が全国的な減少傾向にある現在(社団法人日本新聞協会調べ)、「新聞折込」という配布方法を見直さなくてはならない時期にきています。
伊豆の国市誕生以来、月二回『広報いずのくに』を発行してきたのは、「合併による行政区域の広がりや情報不足による市民の皆さんの混乱を避けるため、『新聞折込』で素早く情報を伝えていく」という考え方によるものでした。しかし、合併から三年が経ち、皆さんに伝える情報も整理されてきた今、『新聞折込』での情報提供も、その役割を終えたと言えます。
これらの状況から判断し、市では、『広報いずのくに』十五日号(新聞折込)を、次の五月十五日号で最終号とすることにしました。
『広報いずのくに』は、六月から一日号に統一して月一回発行し、自治会経由の回覧などにより配布します。



計 283 通の貴重なご意見、ありがとうございました。

アンケートで寄せられた自由意見(抜粋)

1日号について
支所置きの部数が少なすぎる、行ってもないことが多い。市になってから郵便局や図書館などで入手している。1日号も新聞折込にしてほしい。自治会の代表者や会費を教してほしい。アパートで自治会未加入のため配布されない、税金を納めているのにおかしい。組へ入れない老人のために配布方法を変えてほしい。自宅へ個別郵送する。自治会経由配布と希望者有料にて送付を併用するのがよい。大家・仲介業者が入居者に自治会加入を勧める、加入しなければ広報は配布されない事を告知する。組長の意思で配布が遅れるのは困る、配布日を徹底して(同様多数)。自治会経由は組長の負担になっているようなので、希望者だけは今までどおりで、いらぬ世帯は公共施設等で必要なときだけもらうようにする。毎月ためておいて年末に捨てる時、紙がもったいない。他の機関紙も数多く配布されるため、現在と同じ自治会経由の配布を月1回行い、経費を削減させればよい。

広報紙全体について
今後も広報は紙で発行すべき、ホームページは年記者やパソコンのない家庭には無理(同様多数)。自治会経由は遅れるのでお知らせの日程が終わっていることも(同様多数)。月2回新聞折込で即時性を高める。新聞未購読、自治会未加入の家にも配布を。月2回A4版を郵便で各家庭に配達する。現在の配布方法は工夫されていて変更の必要なし、公共施設にも置いてあるので「その気」になれば手に入る。あちこちに置いてほしい(同様多数)。市役所や図書館に置かれているがPR不足で知らない人も多い。全戸配布するための配布ボランティアを募集しては。経費削減のためA4版冊子の月1回発行に(同様多数)。全戸配布が財政的に厳しければ各庁舎に常に置き、希望者が取りに行く。自治会加入、新聞購読等はすべて自己責任、広報を手にする工夫は自分ですべき、行政は少数派の意見に右往左往せず毅然とした態度を取るべし。カラー必要なし。旧町時代も不自由はなかった、月1回発行でよい。

15日号について
新聞未購読の家に配布されないのは不公平(同様多数)。全戸に郵送、納税者への配布は役所の義務である。1日号と同じ配布方法に変えた方がよい。新聞を取っていないのは個人の問題で市が関知するところではない。函南町民だが新聞折込でいつも届いてもらいたくない。わが家は伊豆市の新聞販売店が配達するため折込が入らない。新聞折込はチラシと混ざって見落とししてしまうのでいつも気がつかない(同様多数)。15日号も自治会経由の回覧等で配布してほしい(同様多数)。コストが安いなら自治会経由で、未加入の家には市が届ける。毎回読むが15日号で知らせなければならぬほどの記事はない、1日号一本でよい。15日号はあまり読むところがなく必要ない、経費の無駄、廃止して1日号を充実させるべき(同様多数)。